

《対策のポイント》 ・潜在的な就業希望者を後継者不足に悩む漁業や地域とをつなぐ（地域の魅力を活かして、千葉で生活することを提案）。
 ・船団やグループによる生産活動を維持するため、それぞれが必要な人材を確保育成する。

《目標》 海士グループ： 3年間で6人が地域に定着 / 船 団： 5年間で5～6人の船団への加入

〈対策の内容〉

[課題] 新規就業者が定着しにくい(漁村に馴染めない／漁業技術が身につかないなど)
 地区の海士の高齢化と減少、船団の縮小(人手もなく漁場管理ができない／操業安全確保困難)



方向)海士グループや船団
 が担い手を受入・育てる

1 海士グループの例

目的：「海士漁業」を中心とした磯根漁業の就業者の確保・定着

効果： 海士文化の継承

アワビ漁場の管理の為に必要な人材確保

2 船団の例

目的：「釣り漁業」等の漁船漁業の就業者の確保・定着

効果： 安全操業や資源管理などに必要な人材確保

〈対策のイメージ〉

従来からの就業支援

事業実施先	募集	相談	受入先	研修			定着
				体験	中・長期	フォロー	
荒波丸	系統団体	マッチング	荒波丸	就業希望者 →			荒波丸に定着
	県域全体の漁業を紹介	募集をかけた漁船に乗る		↓ マatching失敗	↓ マatching失敗		マッチング失敗で定着せず
				↓ サポートが十分でない	↓		
				定着失敗			

★マッチング失敗で最初からマッチングをやりなおし

育成モデルによる就業支援

実施先	募集	相談	受入先	研修			定着
				体験	中・長期	フォロー	
漁協（船団） （海士G）	系統団体・漁協	漁協（船団等）	大漁丸	就業希望者	→	→	大漁丸に定着
	漁協（船団） 独自でも募集をかける	どの漁船に乗るのかを船団が調整 （海士Gも同様）		マッチング失敗	マッチング失敗		マッチング失敗でも豊漁丸に乗る
				↓ 漁協（船団等）がサポート	↓ 漁協（船団等）がサポート		
			豊漁丸	就業希望者	→	→	豊漁丸に定着

★船団独自のPRができる

★マッチング失敗でもほかの漁船を探せる

海士漁業の場合

都市部から過疎地域へ定住

地域おこし協力隊事業（総務省）

漁協をサポートするなど地域活動（市支援）
 漁協協力に必要な漁業制度などの研修（県支援）